通巻４７２号　２０２２年１２月１日発行
花かがみ(No.４７２)　２０２２年１２月１日



ツバキ　‘紺秋’（こんしゅう）　画／植田由喜子

花は小～中輪の筒咲き筒芯で濃紅色。咲き始めの色はやや黒っぽい。開花期は10～3月で秋から開花する。
‘紺佗介の実生’の自然実生。亮軒記

花かがみ
HANA-KAGAMI

'22 12

発行人／小笠原　誓　発行所／名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東桜2-18-13 tel. 052-931-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

名古屋園芸

福を呼び込む花飾り



COLORで選ぶ Birthday Flower
～Christmas Color～

街中がイルミネーションに彩られ、クリスマスシーズンに盛り上がる12月。今月はクリスマスのテーマカラー「Red」と「White」に焦点をあてて、より一層クリスマス感のUPしたコーディネートをご紹介します。



レッドベースにグリーン、ホワイトを合わせれば「Christmas Color」のできあがり。メインの花は赤バラ。実物などを組み合わせて、クリスマス感溢れるフラワーギフトはいかがでしょう。



白バラにスモーキーホワイトとシルバーリーフを合わせた「White Christmas」なイメージ。少しエッジの効いたカラーとツリーのオブジェを添えたフェミニンスタイルのフラワーギフトです。

今回ご紹介しましたコーディネートはほんの一部。スタッフと相談しながらお気に入りを探してみるのも良いですね。今月は「Christmas Color」で贈るフラワーギフトがおすすめです。

information

Uber flowers

皆さまは名古屋園芸の花が即届く！Uber Eatsによる花の配達を利用されたことはありますでしょうか？クリスマスや年末年始の装飾がなんだか寂しいと思ったら、Uber Eatsで『名古屋園芸』と検索してみてください。距離や混雑状況にもよりますが通常1時間ほどで花が届きますので、「忙しい年末、お花を買いに行く時間がない」そんな方でも気軽に花を飾っていただけます。季節、イベント事にぴったりな花をご用意しておりますのでぜひご利用ください。

＊配達可能エリアに限ります。
＊営業時間は、店舗と同じく
　10：00～19：00となります。
＊店舗が混雑時には注文をお受けできない場合もございます。



ORDER WITH Uber Eats

ご注文は
こちらのQRコードから

花の博物館 第323回

俳諧一目千本（内題　華すまひ）乾坤二冊

松月庵範蔵（編）（架蔵本は奥付欠）
文政十二年（刊）　国書による

小笠原左衛門尉亮軒



乾巻最初の見開き
相撲の土俵、柱に現三役勝力士へ贈る弓、矢、つるが結び付けてある



坤巻初冬の頃か
右から　刈萱　四季咲金仙花
暮の□　茶の花

架蔵本、坤の巻にあるべき奥付が欠けて、国書総目録により編者、刊年を記入した。しかし別本「刊本花道書年表」によれば「紅塵陌人序　安永3年（1774）蔦屋重三郎刊」とある。求めた時、歌麿や写楽の浮世絵刊行で有名な蔦屋重三郎の処女刊行本であるが、伝本は極めて稀と聞いた。刊行伝本の数はともあれ、この本の内容は花草花木を花時に分け、春夏を乾、秋冬を坤に収録してすべて其花をいけ花として描き、其花に似合う吉原の花魁に見立てて記載。例えば乾巻の第一図は植物さくら、俳句おもひきや　さくらを花の　司とや　おいらん松葉屋はつ風、第二図は、敦盛草　ゑびや風折　坤巻第一図は秋海棠、秋ながら　華の位の　かいどうや　おいらんは　扇子屋滝川、第二図は雁来紅、松かねや奥州　とある相撲取組の勝負は、読者の極めるところとしゃれている。

スペースがあれば、序文や、乾坤巻の中入と題する中序など　読み下し分を記載したいところ。

兎に角、この資料はいけ花の花型図本であり、植物図譜であり、吉原の花魁の評判記であり、ただ今の人気アイドルの人気投票を読者に考えさせるなど色々な仕掛けを持ち合わせている。さすが名プロデューサー、蔦重である。

シンガポール植物園「江戸の園芸展」開催

小笠原　誓

２０２２年にシンガポール植物園から江戸花文化の展示会への出品依頼を受けました。２０１５年にユネスコの世界遺産に登録され、広大な植物園の中に様々なテーマを設けた区画が設けられ、園芸的な楽しさのみならず植物学の資料、資産の保存もしています。一昨年できた新しいエリアに美術館が建設されました。２階建ての洒脱な洋館全体が美術館です。今回は１６００～１９００年代の江戸から明治時代の園芸資料が１００点ほど展示されました。日本からは雑花園文庫と名古屋市立東山植物園から重要文化財を含む資料が展示され、どれも海外初出品でした。２０２２年５～10月までの会期中３万人以上の方が訪れました。海外の方にもわかりやすいように図譜を中心に展示され、日本独自に発達した、朝顔、菊、椿、蓮、花菖蒲、万年青など多くの資料が公開されました。

日本の花文化を研究する学芸員がおり日本の花文化や資料に精通していることにも驚きました。日本には多くの資料が残されており国内でも一部の研究者により研究が進んでいます。



第1展示会場
左手に「花壇養菊集」 正徳5年の拡大図が会場を飾る



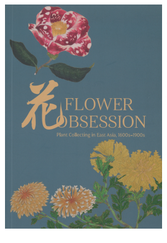
ボタニカルアートギャラリー（美術館）
今回の展示会が開催された建物



第2展示会場　　右手に現物のアキタブキの葉に墨を塗って葉形や葉脈を写し取った



和本を日本で展示するときは水平に置かれるが、垂直に展示されしっかりと固定されている





108ページの図録が出版され英文で発表された



Singapore Botanic Garden　シンガポール植物園
面積82ヘクタール。3日間通い続けても全部見ることができないくらい広大かつ見どころ満載の植物園